

## 山口学研究プロジェクト～明治 150 年から見える山口県の未来～について

メインテーマ「明治 150 年から見える山口県の未来」の下、5 件の分野別研究プロジェクトを推進します。各プロジェクトの概要は次のとおりです。

### ①『台湾の近代化に注いだ長州人達の熱情を未来につなぐ』

研究代表者：山口大学国際総合科学部特命教授 福屋利信

明治時代、台湾の近代化に尽力した 5 人の長州人に焦点を当て、台湾の親日感情形成に明治の長州人たちが大きな役割を果たしたことを様々な角度から分析し、それをどのようにして台湾と山口の未来に繋げるか提案します。

### ②『ハワイ移民史 150 年と今後の 150 年 ～「移民の歴史」では語れない「移民者の軌跡」～』

研究代表者：山口大学国際総合科学部准教授 杉井 学

日本からハワイに最初の集団移民が渡ってから 150 年。山口県からは約 1 万人もの人々がハワイへ渡った。日本とハワイ両方の歴史的背景や社会情勢を踏まえたマクロの視点、そして個々の移民の物語といったミクロの視点をつないでいくことで、現代につながるハワイと日本・山口県の 150 年の軌跡を明らかにする。日本とハワイの歴史について再認識するとともに、グローバル時代を迎えた日本・山口県の今後 150 年のありかたについて提案する。

### ③『山口のフィールドジオロジーが明治から平成の日本を変えた。』

そして今、山口のフィールド教育が新たに世界を変えていく。』

研究代表者：山口大学大学院創成科学研究科教授 脇田 浩二

高島北海によって作成された日本最初の地質図「山口縣地質分色圖」や伊藤博文による日本全体で地質図を作るための組織作りの提案など、山口県の地質図作成の歴史や地質研究の歴史を振り返り、山口県が日本の地質学の発展のために果たしてきた役割をレビューするとともに、今後の教育・研究発展の可能性について、検討をすすめます。また、山口大学の野外地質（フィールドジオロジー）を中心とした地質学教育の未来の姿を提案します。

#### ④『日英饗応料理から現在に至る食文化の変遷』

研究代表者：山口大学教育学部教授 五島 淑子

幕末に毛利父子とキング提督が会見したときの献立である「日英饗応料理」の再現創作を行う過程で、当時の状況や食品・料理・栄養等の面から、幕末から現在の食文化への変遷を明らかにする。栄養学、食育、イギリス文化、郷土料理等の視点から総合的に検討を加え、健康、食料生産等の面から、将来の食のあり方について提案します。

#### ⑤『山口県工業の発展史 — 周南、岩国・和木、宇部 —』

研究代表者：山口大学大学院技術経営研究科教授 稲葉 和也

山口県の工業は、戦前から地元、近県、外国の資源を使用して工業原料を製造し、関西、関東方面へ供給する「中間製品産業」の特徴があり、大規模設備で中間製品を生産して消費地に大量に海上輸送を行う形態で主要工業は発展してきました。戦後、石油化学コンビナートの発展によって、山口県は石油化学製品が主要な生産物となるが、地元での関連加工業の展開を欠き、第三次産業への波及効果もあまり見られなかった。山口県工業の発展史について三つの地域（周南、岩国・和木、宇部）を明治期から現代まで調査し、地域の特徴を捉えた上で未来への工業発展への提案を行います。